

大館市のバランスシート(平成16年3月31日現在)

借方

資産運用の内容

(資産の部) 将来に引き継ぐ財産	
1 有形固定資産	736億2千万円 (構成比)
(1) 総務費	26億4千万円 (3%)
(2) 民生費	67億5千万円 (9%)
(3) 衛生費	5億9千万円 (1%)
(4) 労働費	5億2千万円 (1%)
(5) 農林水産業費	66億6千万円 (9%)
(6) 商工費	24億7千万円 (3%)
(7) 土木費	317億円 (43%)
(8) 消防費	3億5千万円 (1%)
(9) 教育費	216億4千万円 (29%)
(10) その他	3億円 (1%)
(有形固定資産のうち土地)	(165億9千万円)
2 投資等	42億9千万円
(1) 投資及び出資金	19億4千万円
(2) 貸付金	5億2千万円
(3) 基金	16億6千万円
① 特定目的基金	9億5千万円
② 土地開発基金	7億円
③ 定額運用基金	1千万円
(4) 退職手当組合積立金	1億7千万円
3 流動資産	18億8千万円
(1) 現金・預金	13億8千万円
財政調整基金	4億1千万円
減債基金	4億8千万円
歳計現金	4億9千万円
(2) 未収金	5億円
地方税	4億2千万円
その他	8千万円

資産合計 797億9千万円

貸方

資金調達の内容

(負債の部) 今後の世代が負担	
1. 固定負債	283億1千万円
(1) 地方債	238億7千万円
(2) 債務負担行為	0円
物件の購入等	0円
債務保証又は損失補填	0円
(3) 退職給与引当金	44億4千万円
2. 流動負債	32億1千万円
(1) 翌年度償還予定額	32億1千万円
(2) 翌年度繰上充用金	0円
負債合計	315億2千万円

(正味資産の部) これまでの世代が負担

1. 国庫支出金	114億円
2. 都道府県支出金	49億5千万円
3. 一般財源等	319億2千万円
正味資産合計	482億7千万円

負債・正味資産合計 797億9千万円

保育所、北部老人福祉総合エリア等

勤労者福祉施設等

湯夢湯夢の里等

道路、公園、市営住宅等

小中学校、樹海ドーム周辺施設等

水道、病院事業会計への出資金等

教育施設、庁舎建設基金等

特別導入貸付牛購入基金

退職手当組合積立金のうち大館市の持分相当額

市債の償還のための積立金

翌年度への繰り越し現金

市庁舎、市民文化会館等

墓園整備等

農林道等

防火水槽等

地域総合整備資金等

年度末の市債残高(翌年度償還分を除く)

年度末に全職員が退職した場合の手当の試算額

翌年度の償還元金

有形固定資産を取得するために使った国や県からのお金

資産を取得するために使った市税など

バランスシートから分かること

市では平成15年度の普通会計(一般会計・土地取得特別会計・奨学資金特別会計・都市計画事業特別会計・急患センター特別会計)決算に基づいて「大館市のバランスシート(平成16年3月31日現在)」を作成しました。バランスシート(貸借対照表)は、学校、福祉施設、道路などの資産とその建設や運用のために必要となった資金を対比して、年度末における市全体の財産の状況を示したものです。

これにより、従来の「歳入歳出決算書」では分からなかった将来に引き継ぐ財産や今後の負担の状況を知ることができます。

資産の部の有形固定資産を見てみると道路、市営住宅、公園などの「土木費」の割合が43%と最も多く、次いで学校建設などの「教育費」が29%となっています。他の団体も市民の日常生活に関わる施設の整備として、この割合は上位を占めています。

この割合が低いから行政サービスが少ないということではありません。民生費の多くは保育費や生活保護費などの行政コストとして支出され、資産の形成に結びつかないからです。

有形固定資産と負債の割合を見ることにより、今後の世代によって負担されなければならない割合が分かります。負債合計315億2千万円を有形固定資産残高736億2千万円で割ると、42・8%となり、将来負担が4割以上となっていることが分かります。今後の少子高齢化の進行を考慮すると、これまでに以上に将来への負担を抑えていく努力が必要です。